

## 【琴路神社馬駟神事について】

琴路神社馬駟神事は、神幸祭（お上り）当日の神事で氏子地区内の約50頭が出場し、1年間の無病息災を祈って百年程前から行われていると伝えられています。昭和20年頃までは、年に一度の祭に充分な手入れと共に飾り立てられた農耕馬が、当日朝には神社前の道（馬場参道）に集まり、飼い主と共に神前に詣でたり社殿の周囲を馳せ回り夕刻までを過ごしました。氏子を問わず近隣から集まった人達は、その様子を見物しようと弁当持参で参拝し拝殿・境内も参拝者で埋まり大変賑わっていたそうです。

夕方となり還御を控えた御神輿の行列が神社近くにお着きになると、参加の馬はその後にお供をなして付き従います。やがて、2基ある御神輿のうち白襷を掛けた御神輿は先に還御され、お供の威儀物等とともに社殿に納められます。行列の中で唯一残された赤襷を掛けた御神輿は、一の鳥居・二の鳥居の所で馬との競り合いを行います。馬は御神輿を押しつけ我先に境内を目指しますが、御神輿は大きく揺すられたり担ぎ手の掛け声等で馬の行く手を遮り、一進一退を繰り返して徐々に境内の奥へと移動します。参加している馬は「必ず鳥居をくぐって境内に入る」という約束があり、二の鳥居手前で横向きになり馬を止めていた御神輿が頃合いを見て一斉に社殿に向かって走り出すと、その後を追って馬が境内へとなだれ込みます。馬は社殿を右回り（時計の針と同方向）に駆け抜けますが、一番早く社殿を廻ったものが縁起が良いとされていました。現在では氏子区内に農耕馬もいなくなり近隣の牧場等より馬を手配していますが、出場馬には神紋を染め抜いた旗を1枚、お供馬には「神馬」と書いた旗を1枚差し上げております。

近隣を含め全国でも馬が拘わる神事は数多くありますが、曾ての神事に従い騎手は普段着で騎乗することや社殿を馳せ回る事など、他に類例を見ない神事としてその独自性が高く評価されています。

琴路神社馬駟神事は、その伝承・維持の為に公益財団法人馬事文化財団、馬事畜産振興協議会（公益法人中央畜産会内）より多大なご理解とご支援を頂いております。

## 【参考】

公益財団法人馬事文化財団  
馬事畜産振興協議会

<https://www.bajibunka.jrao.ne.jp/index.php>

[https://dento-kachiku.jp/category/kyusyu\\_okinawa/saga/](https://dento-kachiku.jp/category/kyusyu_okinawa/saga/)